

NPO 法人 都市災害に備える技術者の会

ニューズレター issue 39



都市災害に備える技術者の会事務局：〒651-1432 兵庫県西宮市すみれ台3-1（太田ジオリサーチ内）
TEL:078-907-3120 FAX: 078-907-3123 e-mail: office@toshisaigai.net http://www.toshisaigai.net

新入会員の自己紹介 諸戸順子（もろと じゅんこ）さん

みなさま初めまして。このたび都市災害に備える技術者の会に入会させていただきました、諸戸順子と申します。以下のとおり自己紹介いたします。

- 諸戸順子（もろと じゅんこ） 1971年生まれ 兵庫県西宮市の出身です。
- 京都府農林水産部で治山事業を担当しています。
- これまでの業務は主に土木分野で道路・河川・砂防・宅地開発・施設管理様々な仕事に広く浅く関わってきました。人事交流で農林分野にやってきましたが、他分野で仕事をした関係で改めて防災とは何なのか、を考える機会が増えました。

阪神大震災で被災したことがきっかけで、インフラ整備に関わる仕事を選びました。仕事を通じて、最終的には人の心がインフラの価値観を決めるのだらうなという思いが強くなりました。人の心は変えることは難しいです。不可能と言っても良いのかも知れません。しかし、気づかなかったことに気づくことはできます。インフラ関係の技術者は、ステークホルダーの皆さんに気づいてもらうために、不断の努力をしなければなりません。自然に立ち向かうことは到底叶わないことなので、できるだけその災いに対して知りうること、及びできることを、正確に知ってもらう努力を続けたいといけな

いと考えています。

ハード整備した経験で実感したことは、防災は、医療に例えると公衆衛生と似たところがあるのではないのでしょうか。特殊で最新医療を投入するような難病ではなく、誰にも罹患する可能性のある病で、同時多発的でその被害が連鎖する。その連鎖を止めるのは他でもない、個人の意識と行動がキモになり、その概念や行動及び対処すべてが公衆衛生という技術にあたるでしょう。防災も同じなのだ。個人の気づきと行動が伴えば、おのずと生存確率も上がり財産も守れ、結果的に、それらを守ることでできるインフラの価値を見極めることに繋がる。防災はまごうことなき技術。ソフト技術がハード技術の価値観を高めることにも繋がるのであれば、ハード技術者がソフト技術に注目するのは自然な流れでしょうか。

こういった思いを端緒に、この NPO 法人で達人から沢山学び、そして実行していく。

今後ともよろしく願いいたします。

「東日本大震災 5 周年シンポジウム現地視察会（福島浜通りコース）」（日本技術士会東北本部主催 平成 28 年 6 月 11 日）報告
会員 西濱靖雄

2011年3月11日、東日本を襲った地震と津波により、福島県は多くの人命が奪われ財産に大きな被害が発生しました。更に東京電力福島第一原子力発電所の爆発事故により、多数の市町村が避難指示区域（帰還困難区域、居住制限区域、避難指示解除準備区域）に設定され、現在約 92,154 人(平成 28 年 5 月)（福島復興ステ

ーションHP引用(図1)の方が県内外で避難生活をされています。

視察会は、福島第一原発から約20kmに位置する原発廃炉技術の開発施設「楢葉遠隔技術開発センター」と「Jヴィレッジ」および、今なお避難指示区域となっている富岡町内を見学しました。

・JR仙台駅8:30分出発したバスは、常磐道を南下、南相馬SA→浪江IC→常磐富岡IC→楢葉PA→広野IC、10:30分着、楢葉町にある楢葉遠隔技術開発センターの見学とJヴィレッジで福島第一原発の現況説明を受けました。



図1 避難指示区域図

・楢葉遠隔技術開発センター(日本原子力開発機構)は福島第一原発の廃止措置推進のため、遠隔操作機器(ロボットなど)の開発・実証試験を行う施設であり、作業員訓練用バーチャルリアリティ(VR)システムの研究管理棟と巨大な実証実験棟(図2)がありました。



図2 実証実験棟

バーチャルリアリティ(VR)システムでは、原子炉内部(疑似空間)を自由に移動できる体験をしました。実証実験棟(図2)は原子炉の1/8セクター試験体(図3)や試験用水槽などが収容されている巨大な建物です。



図3 実証実験棟内部
(1/8セクター試験体)

・Jヴィレッジでは、東京電力(株)福島復興本社の職員から、福島第一原発の事故発生から現在の対応に至る経緯の説明を受けました。(図4)



図4 福島第一原発現況説明会

・13:30頃、Jヴィレッジ出発、常磐道を北へ、広野IC→常磐富岡IC経由で富岡町に移動し、廃棄物処理施設(図5)→JR富岡駅(図6)→商店街(図7)→震災遺構津波被災パトカー慰霊碑→観陽亭(図8・図9)→夜ノ森地区(図10)を見学しました。

図5は、仮設の廃棄物処理施設で、放射線拡

散防止のため全て屋根付きです。



図5 廃棄物処理施設

図6は、津波被害に遭ったJR富岡駅、平成29年末運転再開に向け工事中。



図6 JR富岡駅

図7は、今なお手が付けられていない震災当時のままの商店街。



図7 震災当時のままの商店街

図8は、観陽亭（海拔18mの高台にあつて津波被災した）より望む海岸から突き出たキャンドル岩



図8 観陽亭より望むキャンドル岩

図9は、観陽亭（海拔18mの高台にあつて津

波被災した）より望む、富岡港、白い施設は焼却場、遠くに見える鉄塔は東京電力福島第2原発。



図9 観陽亭より望む富岡港

図10は、桜の名所の夜ノ森地区、バリケードの向こう側は立入禁止の帰還困難区域。



図10 夜ノ森地区（立入禁止バリケード）

・すべての視察行程を終わり、15:30分頃に解散、常磐道を北上→仙台経由で帰ってきました。まだまだ多数の市町村が避難指示区域に設定されており、そこに住む人々の生活や社会に対する影響が大きく、原子力発電の影響力の強さを痛感しました。

第45回防災講演会（10/15）のご案内
『新たなステージに対応した防災・減災の推進について～水防災意識社会の再構築～』
講師：京大防災研 多々納裕一教授

NPO法人都市災害に備える技術者の会では、防災講演会を下記のとおり開催いたします。
日時：2016年10月15日（土）13時半～16時半、場所：ドーンセンター（大阪市中央区）

今回は京都大学防災研究所社会防災部門教授の多々納裕一氏をお招きしてお話をさせていただきます。

参加申し込みは、HPにリンクされた申込書

をお願いします。

<http://toshisaigai.net/event/20161015tatano.pdf>

多々納先生のご略歴は、以下の通りです。



- 1961年 島根県出雲市生まれ
- 1986年 京都大学大学院工学研究科修了後、島根県土木部技師
- 1988年 鳥取大学工学部助手、1993年に同助教授
- 1997年 京都大学防災研究所助教授
- 2003年 京都大学防災研究所教授、現在に至る

○研究の主なテーマ

専門は防災経済学、災害リスク管理論。「総合防災学」の確立に向けて、「災害の社会経済的影響評価と災害リスクの軽減のための意思決定の方法論に関する研究」が主なテーマ

○委員等

- ・社会資本整備審議会河川分科会（「気候変動に

適応した治水対策検討小委員会」、「大規模はん濫に対する減災のための治水対策小委員会」

・想定最大外力（洪水、内水）の設定に係る技術検討会

・滋賀県流域治水検討委員会 他

○著書

『総合防災学への道』（京都大学学術出版会）

『防災の経済分析』（勁草書房）他

防災一口メモ

明治時代の地形図閲覧サイト

日本の明治時代の5万分の1の地形図は下記URLで閲覧できます。

<http://stanford.maps.arcgis.com/apps/SimpleViewer/index.html?appid=733446cc5a314ddf85c59ecc10321b41>



都市部の、より詳細な明治時代地形図は、埼玉大学の谷先生が作成された「今昔マップ」が便利です。

<http://ktgis.net/kjmapw/>

事務局だより

◆ニューズレターのバックナンバーは、ホームページ (http://toshisaigai.net/newsletter/newsletter_index.html) にアップロードしています。

◆ワーキンググループ活動の例会の案内は、ホームページにも掲載しますので、ご興味のある方は参加してください。

◆あらためてご案内いたしますが、振替用紙が届きましたら2016年度会費の納入をよろしくお願いたします。(正会員5000円です)

郵便局 00990-1-162816 加入者名 都市災害に備える技術者の会

三井住友銀行 藤原台支店 普通預金 7566003 特定非営利活動法人 都市災害に備える技術者の会

(2年間連続で未納の場合、自動的に退会扱いとなりますのでご注意ください。)

◆住所変更・メールアドレス変更等はできるだけ早く事務局にお知らせください。

書式等は、ホームページ <http://toshisaigai.net/join/join.htm> にあります。

◆メーリングリストが届かない方は、事務局までお知らせください。またメーリングリスト不要の方は、毎月初めに届くメーリングリスト備忘録に従って登録を外してください。

◆研修会講師の心当たり、あるいは研修内容の希望がありましたら、事務局 (office@toshisaigai.net) までお知らせください。

◆ニューズレターの原稿を随時募集いたします。お気軽に事務局までお送りください。